

危険いっぱい、自然壊すリニア新幹線の工事を止めよう！

第30回団結まつりで地震対策、安全対策の欠陥を訴える



10月23日(日)、東京・亀戸中央公園A地区で「命どう宝・第30回団結まつり」が行われ、私たち東京・神奈川連絡会もブースを開設し、リニアの地震対策・安全対策の不備を示すパネル展示で、参加者に問題点を説明し、ストップ・リニア！訴訟への支援を訴えました。

当日用意した200枚のチラシと同数のリニアパンフは全て無くなり、受け取る方も口々に「リニアなんか要らないよね」、「自然を壊して将来をどうするんだ」などと話していました。

団結まつりは、企業の合理化政策や国による国鉄労働者の差別や原発政策などに抵抗する人たちを支援する目的で行われてきました。「命どう宝」(いのちこそたから)とあるように、今年も沖縄の辺野古基地建設や高江町のヘリパッド建設で闘う沖縄県民支援がまつりのテーマになっており、この日も沖縄・高江町から「ヘリパッドいらぬ住民の会」の儀保昇さんが駆けつけ(写真下段右)、芝生の上で参加者との交流集会で、「本土各地から動員された機動隊の暴力は許せない。毎日のように抗議行動参加者が拘束されている」と語り、「是非沖縄に来て、厳しい高江の実情を理解してほしい」と訴えました。写真下段左は、リニア訴訟原告を含む静岡のグループで隣のブースでした。なお、東京・神奈川連絡会からは、山本(マ)、児玉、矢沢、天野の4人が参加し、町田のリニア立て坑工事に関する請願書名70筆余りが集まりました。